

『揖斐川を彩る夏の大輪』



大会の目玉2尺玉（錦カムロ菊浮模様） 写真：岐阜新聞提供



開会挨拶（左：小川敏大垣市長）
（右：野村克之岐阜新聞・西濃支社長）



点火式に参加した細野揖斐川第二出張所長（左）

野球王国「大垣」が元気！ 祝砲のように響く、第58回岐阜新聞大垣花火大会

「第58回岐阜新聞大垣花火大会」（岐阜新聞社・ぎふチャン主催）が開かれた7月26日（土）、揖斐川河畔では浴衣姿のカップルや家族連れらが詰めかけ、真夏の夜空を彩る約3000発の花火を満喫した。午後7時30分に開会セレモニーが始まり、冒頭、小川敏大垣市長は「本日、高校野球で大垣日大が2年連続甲子園の切符を手にした。都市対抗では西濃運輸が快進撃を続けている。大垣ミナモソフトボールクラブも全国クラブ選手権3連覇まであと1勝。野球を中心に活気ある大垣が元気を出して、西濃地域一円を盛り上げたい！」とした上で、「今宵は音楽と共演し華麗に打ち上がる花火を思う存分に楽しもう！」と挨拶。大垣商工会議所の栗田副会頭と、国土交通省の細野揖斐川第二出張所長が点火し、華々しいスターメインが大会の始まりを告げた。

市民らは「ドーン」と腹に響く低重音と、目の前に広がる色とりどりの花火を堪能。軽快なリズムに合わせて多彩な花火が打ち上がるミュージック・スターメインや、大会の目玉である2尺玉による直径500mの光の大輪が上空を覆うと拍手と大歓声が沸き上がった。



写真：岐阜新聞提供

堤防天端には屋台が立ち並び、かき氷や、焼きそばなど食べ物を買求めようと沿道には多くの見物客が溢れ、花火の打ち上げを心待ちにする人たちで賑わっていた。



川を愛する住民の清掃活動

花火大会から一夜明けた27日（日）早朝、揖斐川堤防では、NPO法人西濃明るい社会づくり運動、小野校下スポーツ少年団連絡協議会、県損害保険代理業協会など、住民200人以上が清掃活動に汗を流した。参加者は、ゴミ袋を手に、ペットボトルやビールの空き缶、食べ物の空き容器、たばこの吸い殻などを拾い集めた。参加者の一人は「毎年、このイベントに参加しているが、年々、捨てられるゴミの量が減ってきているように感じる。少しずつモラルが浸透し向上してきているのではないか」と話した。



揖斐川右岸41.6Kp付近 大垣市東町地先

■出張所コメント

- 花火大会会場のゴミ拾いに多数のボランティアの方々が参加し、揖斐川第二出張所も微力ながらお手伝いをさせていただきました。本当にありがとうございました。
- 当出張所が管轄する揖斐川及び杭瀬川は、隣接する木曽川や長良川に比べるとゴミの不法投棄の量は少ないようですが、それでも多くの労力と税金を投じて処分を行っています。ゴミの不法投棄撲滅は、市民一人ひとりのモラルにかかっています。また、ゴミの不法投棄の現場を見つけることは、我々、行政や警察の力だけでは困難です。ゴミの不法投棄を各自が「しない」ことは勿論ですが、他人に対してもゴミの不法投棄を「させない!」「許さない!」、地域をあげて毅然とした態度で対応していただくことを切に願っています。